

教員養成ならではの大学教職員PD講座
(プロフェッショナル・ディブロップメント)講座
第3講②

大学における実践的指導力の育成について
—学校インターンシップ・学校ボランティアを手がかりに—

東京学芸大学
望月耕太

協力：教員養成開発連携機構（北海道教育大学・愛知教育大学・東京学芸大学・大阪教育大学）
教育養成連携開発センター研修・交流支援プロジェクト

「教員養成ならではの大学教職員PD (プロフェッショナル・ディベロップメント) 講座」の構成

- 第1講 大学における教員養成
- 第2講① 教員養成系大学における学生気質と学生指導の課題
- 第2講② 学生の多様性とインクルージョンにおける学生支援の課題
- 第3講① ~~附属学校の役割・特色、附属学校を活用した研修~~
- 第3講② 大学における実践的指導力の育成について
ー学校インターンシップ・学校ボランティアを手がかりにー
- 第4講 「師範学校」と「大学」ー近代教育と教員養成の「場」の問題ー
- 第5講① 「チーム学校」と教育支援・教育協働その1
- 第5講② 「チーム学校」と教育支援・教育協働その2
- 第6講 教員養成の多様性と「質」保証
- 第7講 これからの大学での教員養成について考える
- 第8講① 諸外国から見た日本の教員養成の現状と課題①
- 第8講② 諸外国から見た日本の教員養成の現状と課題②
- 第8講③ 教員養成のグローバル化に向けた挑戦

第3講②の柱

- 第1部
学校インターンシップ・学校ボランティアとは
- 第2部
学校インターンシップ・学校ボランティアが
広がった背景
- 第3部
学校インターンシップ・学校ボランティアの
効果と課題
- 第4部
学校インターンシップ・学校ボランティアの
実践例の紹介とまとめ
—A大学の取り組みに基づいて

第3講②の到達目標

- ①学校インターンシップ・学校ボランティアの
ねらいや実施されている背景を理解する。
- ②学校インターンシップ・学校ボランティアの
教育的な効果と実施する上での課題を理解する。
- ②学校インターンシップ・学校ボランティアを
実施する上での注意点を理解する。

○第Ⅰ部

学校インターンシップ・学校ボランティアとは

教員養成教育において、
実際の学校に行き活動することが想定されている
授業科目にはどのようなものがあるのか？

- ・ 教育実習 ……必修
- ・ 学校インターンシップ ……各大学の判断
- ・ 学校ボランティア

学校インターンシップ・学校ボランティアについて

本講座では、

授業科目として実施されている活動の中で、

実際の幼稚園、特別支援学校、小中高等学校に行き、

学校の仕事を体験しながら教育支援活動を行う

取り組みとします。

教育委員会・各学校と大学との間で
行われる教育実習とは異なります！

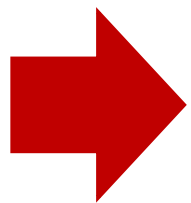
大学における学校インターンシップ・ 学校ボランティアの取り組み状況

○全国の国立教員養成系大学・学部

約3分の2の大学が実施(山本ら 2013)

○全国私立大学教職課程研究連絡協議会加盟大学
回答の半数以上の大学が実施

(全国私立大学教職課程研究連絡協議会加盟大学 2013)



全国のかなりの数の大学が実施している。

①名称

②活動期間

③活動内容

③カリキュラムにおける位置づけ



大学によって多様

①名称

各大学の活動名称に使用されている語について

- 「学校」「教育」
- 「教育」「学び」「支援」
- 「体験」「実習」
- 「インターンシップ」「ボランティア」
…etc

②活動期間

半期のみや1年間を通しての活動など、
単位の取得条件によって定められることが
多いです。

活動において想定されること

- ・学期途中での活動中止
- ・授業期間外の活動

③活動内容

大学と活動先が**希望する活動内容**をすり合わせた上で、決定することが多いです。

活動内容の例

- ・授業中や休み時間中の教師の支援
- ・部活動指導の支援
- ・補習の支援
- ・学校のホームページの更新

④カリキュラムの位置付け

大学によって位置付けが異なっています。

大学の実施例

①必修科目とする。

②選択科目ではあるが、

教員免許取得希望者には履修を推奨する。

○第2部

学校インターンシップ・学校ボランティアが
広がった背景

① 「実践的指導力」の要請

② 体験を伴う授業の拡大

この2点に注目して話します。

① 「実践的指導力」の要請

1971年 中央教育審議会 答申

「今後における学校教育の総合的な拡充整備
のための基本的施策について」

「教職は、本来きわめて高い専門性を必要とするものであり、教育者としての基本的な資質のうえに、教育の理念および人間の成長と発達についての深い理解、教科の内容に関する専門的な学識、さらにそれらを教育効果として結実させる実践的な指導能力など、高度の資質と総合的な能力が要求される」と示されました。

+ 答申の中には「使命感」という語もありました。

1971年 中央教育審議会 答申

「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」

教師に対して「実践的な指導能力」を求めています。

- ・ 成長と発達についての深い理解
- ・ 専門的な学識
- ・ 使命感



さらに、具体的に

1972年 教育職員養成審議会 建議

教師には「教育者としての使命感と深い教育的愛情を基盤として、広い一般的教養、教科に関する専門的学力、教育理念・方法および人間の成長や発達についての深い理解、すぐれた教育技術などが総合されている」ことを求め「実践的な指導能力」の必要性を示しました。

1978年 中央教育審議会 答申

「教員の資質能力の向上について」

○養成教育

「教育実習その他**実際の指導力**を養うための教育に不十分な面がみられる」と示しました。

大学に対して、

教科教育、教育実習その他の**実際の指導面に関する教育の充実**に留意した教育課程の改善を図り、
初等中等教育において**十分な教職経験と教育研究上の実績を持つ者**を進んで**大学に招致する**などの配慮をすることを求めました。

1986年 臨時教育審議会(※) 第二次答申

「我が国における社会の変化及び文化の発展に対応する教育の実現を期して各般にわたる施策に関し必要な改革を図るための基本的方策について」

※中央教育審議会は文部（科学）省におかれていますが、臨時教育審議会は（当時）総理府に置かれていました。

○望ましい教員像

「児童・生徒に対する**教育的愛情**を基盤とする広く豊かな**教養**、教育の理念や人間の**成長・発達**についての**深い理解**、教科等に関する**専門的知識**、そしてそれらの上に立つ**実践的な指導力**」を持った者と示されました。

1987年 教育職員養成審議会 答申

「教員の資質能力の向上方策について」

○教員に求められる能力

教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、
幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、
広く豊かな教養、そしてこれらを基盤とした実践的指導力

○養成教育

真に教員にふさわしい人材を養成することが必要であることが示され、教員養成教育において、専門性の一層の充実を図ることが求められました。

②体験を伴う授業の拡大

- ・1991年 大学設置基準の大綱化

大学1・2年次において、体験が伴う実践的な授業の実施が可能になりました。

- ・1997年 教育職員養成審議会 第一次答申
「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」

- 養成教育

- ・ボランティア体験や福祉体験を奨励することが求められました。
- ・実践的指導力の基礎を強固にするために「教育実習の充実」が提起されました。

・1997年 フレンドシップ事業の開始

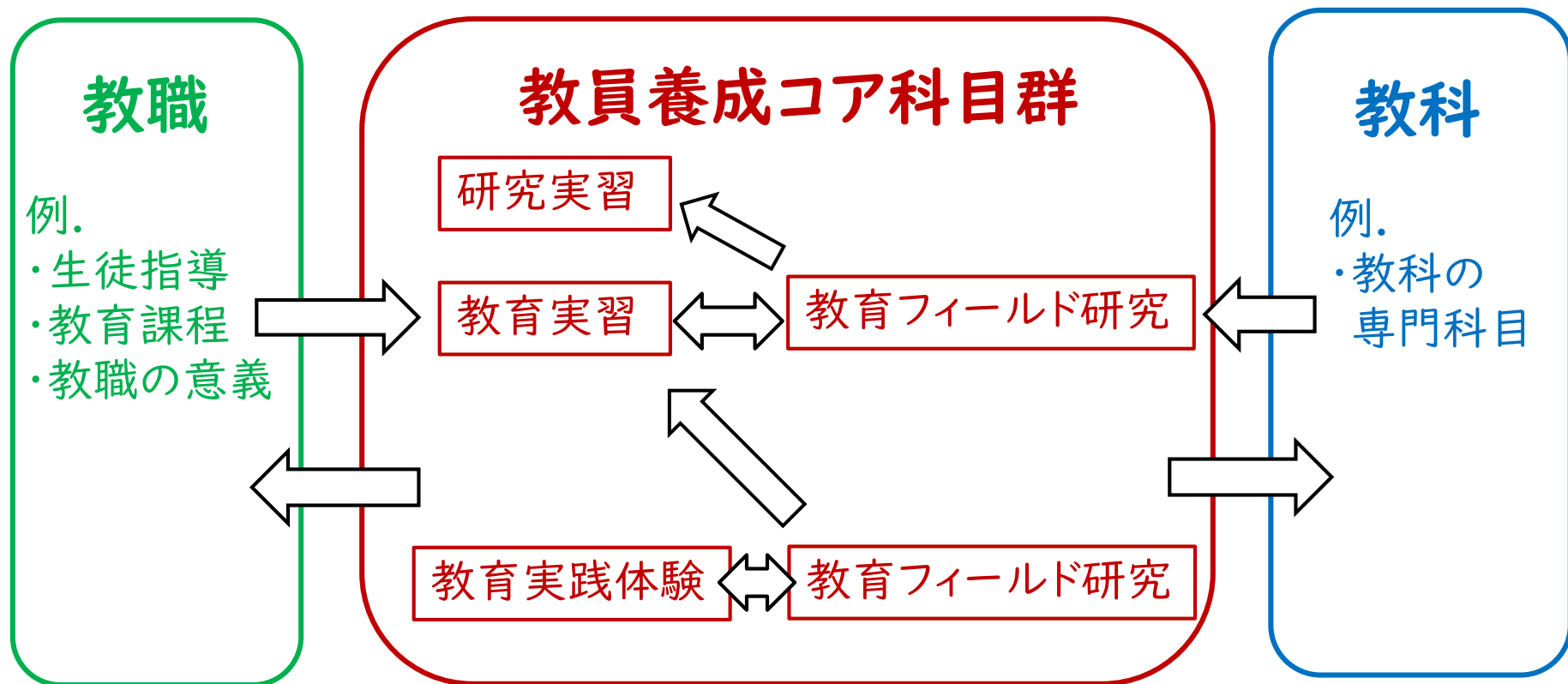
当時の文部省が全国の教員養成系大学・学部を対象に、学生が子ども理解を深め、教師としての**実践的指導力**の基礎を習得することを目的した、様々な**体験活動**等を行う事業の公募を開始しました。

・2004年 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクトの提案

教員養成カリキュラムに教育現場における**体験の場**と**研究的な省察の場**との**往還**を柱とする教員養成コア科目群を設置する提案を行いました。

教員養成のカリキュラム・モデル [概念図]

※教員免許取得に関わる科目の部分



この表は、日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト(2004)の教員養成のカリキュラム・モデル [概念図] を参照し、作成しています。

・2015年 中央教育審議会 答申

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上
について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティ
の構築に向けて～」

「**学校インターンシップの導入**」が提案されました。

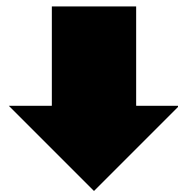
- ・ 学生が継続的に**学校現場等で体験的**な活動を行う。
- ・ 理論と実践の往還による**実践的指導力**の基礎の育成に有効である。
- ・ 各大学の判断により教職課程に位置付けられる。
- ・ 教育実習の一部に学校インターンシップを充ててもよい。

○第3部

学校インターンシップ・学校ボランティアの効果と課題

現実の学校教育現場を参観できる。

- ・子どもたちや教師との関わり
- ・学校における活動



効果と課題の両面

教職との関わり

教師の仕事を経験できる。

教師に求められる能力、態度が理解できる。

教育的な効果①

- ・教師に求められる知識、技術の習得

→教師になった際の

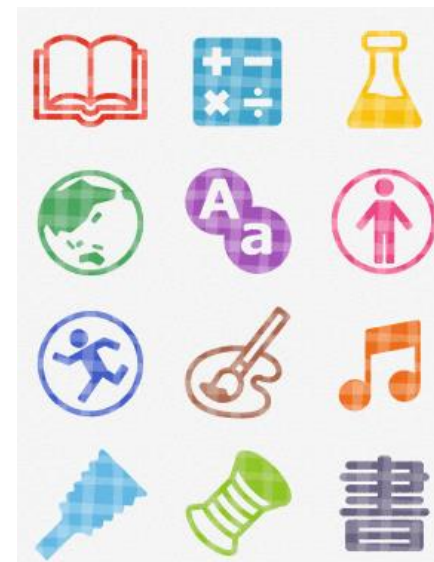
リアリティ・ショックの軽減



- ・教職への適性の吟味

→教職に対する理解、

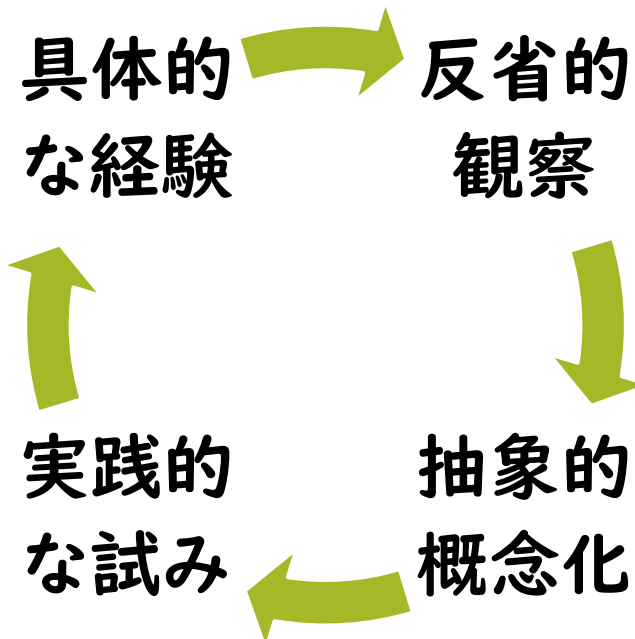
教職以外の職業の検討



教育的な効果②

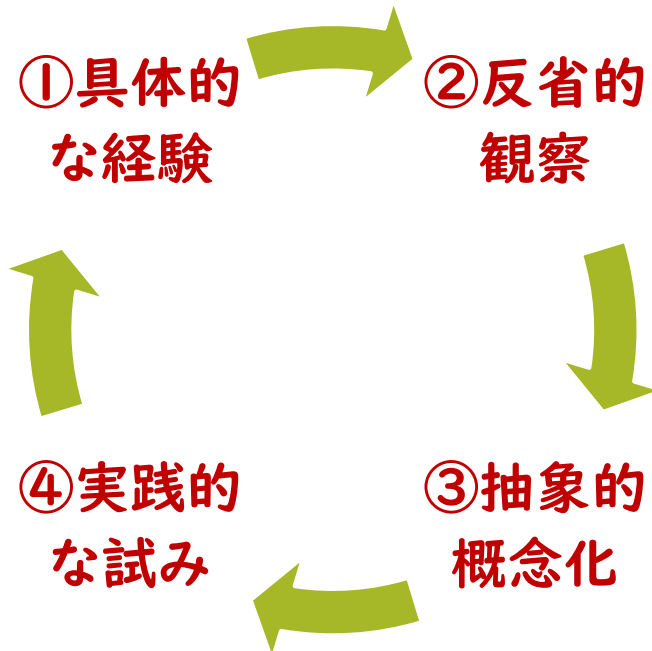
・学校教育における課題の発見

→ 学びの意欲の向上



コルプの経験学習モデル

左図はコルプ（1984）を修正し、作成しています。



具体的な経験…学校に行き教師や子ども達と実際に関わる。

反省的観察 …活動を振り返り、体験した事柄やその時々のおもいや考えを思い出す。

抽象的概念化…活動を通して深めた子ども理解や教師の役割をもとに、他の学びで理解を広げ、教育観や教師観を刷新し、自身の目標を設定していく。

実践的な試み …自身の教育観や教師観に基づき、活動に取り組む。

課題①

- ・活動先におけるトラブル
→教員養成機関・学校の負担増加



- ・活動に係る業務量の増加
→丁寧な指導を行うほど手間暇が
求められるというジレンマ



課題②

・学生の学校教育への過剰な適応

→学校教育における課題が捉えられない。

例① 教師の働き方



例② 部活動



○第4部

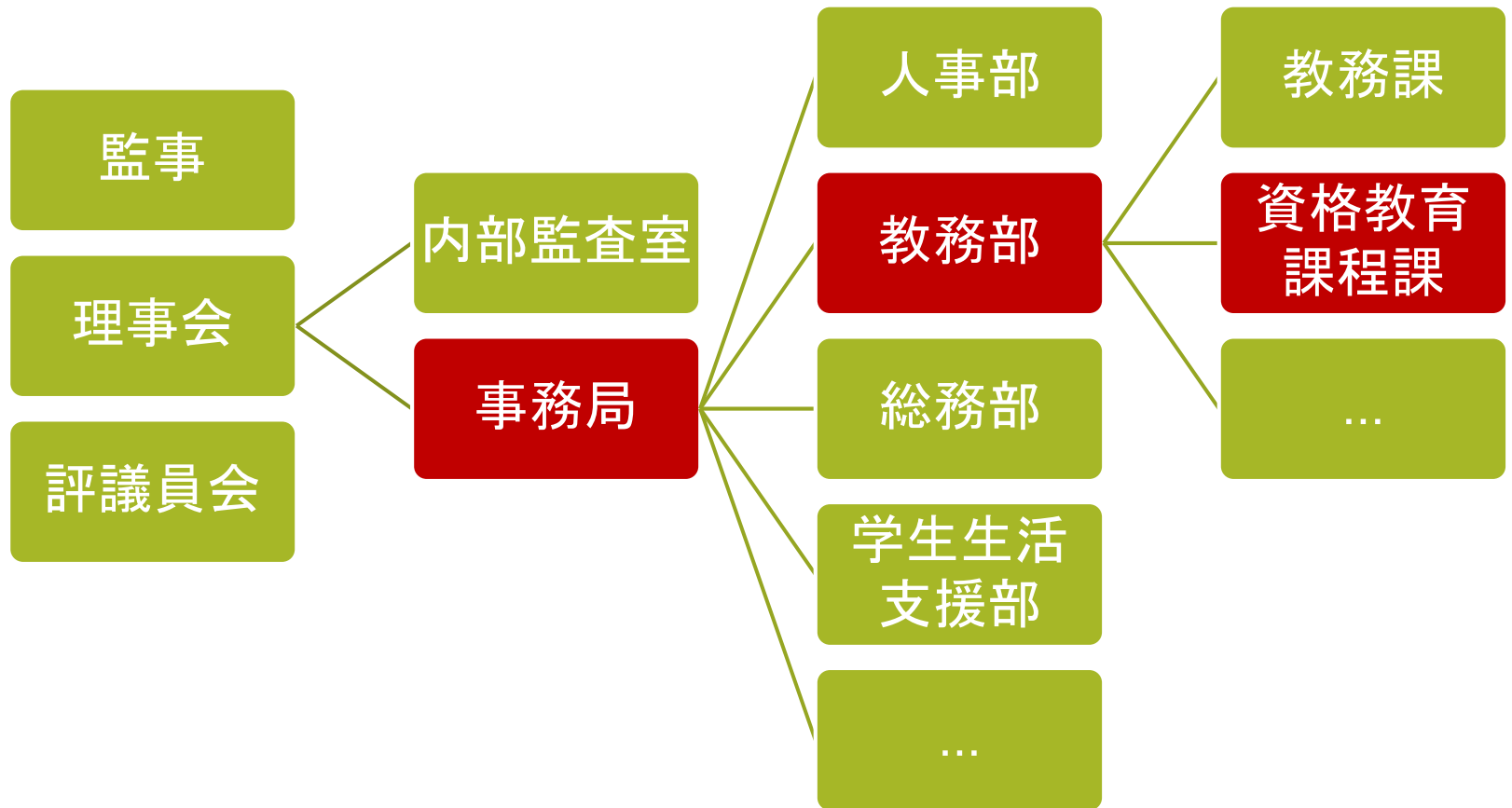
学校インターンシップ・学校ボランティアの
実践例の紹介とまとめ—A大学の取り組みに基づいて

A大学(2020年5月1日 現在)

○概要

- ・学生数(学部生のみ):17,443名
- ・専任教員数(大学院含む):502名
- ・非常勤講師数(大学院含む):1,032名
- ・教員免許取得可能な学科数:22(8学部)
- ・教員免許取得者数:年間120名前後
- ・附属学校あり
全学の教職課程をマネジメントするセンターあり

A大学の事務組織



○活動の概要①

- ・名称:

学校ボランティア

- ・活動期間:

年間を通して実施

- ・活動内容:

教師の仕事の支援

- ・カリキュラムにおける位置づけ:

選択科目として実施

(授業を履修しなくても活動への参加は可能)

○活動の概要②

- ・活動先：小学校3校、中学校12校、高校1校
- ・活動参加学生数：年間のべ約60名

・主な活動内容：

小学校

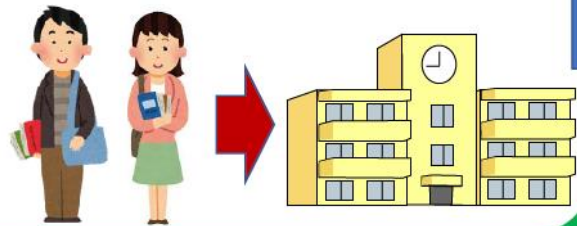
⇒授業サポート、休み時間における児童との関わり、
校外活動の支援

中学校・高校

⇒授業サポート、休み時間における生徒との関わり、
校外活動の支援、部活動指導、
学校のホームページの更新

学校ボランティア活動のながれ

○週に一回程度
学生は空き時間を作って活動する。



毎回の
活動記録
作成

○振り返り会
学生と担当教員で活動を振り返る。



○活動開始前の相談
大学教職員が
学校を訪問し、
活動内容を学校の
管理職と相談する。



レポート
の提出

○振り返りレポート
学生は半期ごとにレポート作成する。
担当教員はレポートの
添削を行う。



大学に求められる対応①

○事前・事中・事後指導

- ・丁寧な関わり（学習支援員の活用・雇用）
- ・学生の要望と受け入れ先の要望のマッチング
- ・取り組んだ内容とその考察を記載する活動記録
- ・学習目標の設定とその進捗状況の記録
- ・振り返りの場（学生、大学教員、受け入れ先の教員）の設定

大学に求められる対応②

○大学と学校の関係づくり

- ・ 学校の困りごとの解決
- ・ 学校にも学生指導を求められる関係づくり
- ・ 学校主体のイベントへの協力
- ・ 月に1回程度の学校との連絡・学校への訪問

参考文献

- Kolb A. David、 1984、 *Experimental Learning: experience as the source of learning and Development*. New Jersey: Prentice Hall.
- 住野好久・岡野勉・林尚示・濁川明男「国立教員養成系大学・学部における教育実習カリキュラムの系統化に関する研究」『日本教師教育学年報』第13号、2004年
- 全国私立大学教職課程研究連絡協議会編『現場体験型教員養成の実態と課題 第2報』2013年
- 日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト『教員養成の「モデル・コア・カリキュラム」の検討―「教員養成コア科目群」を基軸にしたカリキュラムづくりの提案』、2004年
- 望月耕太・長谷川哲也・菅野文彦「教員養成における『学校現場体験活動』の意義に関する検討（2）各大学における学校支援ボランティア活動の名称の違いに注目して」『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』No22、2014年
- 大和真希子「第4章 教師教育における『実践』概念の再考」『現代の教育改革と教師 これからの教師教育研究のために』2011年
- 山本真人・菅野文彦・塩田真吾・長谷川哲也「『学校支援ボランティア』の動向に関する実証的分析」『静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』No21、2013年